

はしがき

本書は、『新ハイブリッド民法』シリーズの第3巻として、債権総論の部分を扱うものである。債権は、経済活動の発展に伴い、その機能が多様化し、拡大しており、実務と法理がたえず相克を繰り返している。また、判例の展開も目覚ましい部分である。本書は、そうした債権の性質・効力・移転・消滅および多数当事者の債権関係を明らかにするものである。

本書は、民法（債権関係）改正（2017年）を織り込み、『新ハイブリッド民法』シリーズの方針に則り、読者が**Case**に示された具体例をイメージしながら制度の基本を確認し、図解も適宜用いることにより、立体的な理解ができるように努めた。また、関連する話題を**Topic**で取り上げ、制度が現実社会の中でどのように機能しているかを紹介した。さらに、発展的・応用的な問題を中心に**Further Lesson**で解説した。各章末尾の*Exam*および巻末の*Hybrid Exam*は、復習と応用力の鍛錬を目指すものである。これらを活用し、読者がそれぞれの勉強の進度に合わせて、講義を聴く際の予習・復習の教材として、また受験準備や独習用テキストとして、本書を利用されることを願っている。

執筆者はいずれも、法学部および法科大学院で、日々授業や演習に奮闘しているが、その過程で得られた各自の経験や工夫や思いが本書の各所に活かされ、法学部と法科大学院とをつなぐものとしての本シリーズのコンセプトの実現にながしかでも寄与していればと願う次第である。

本書の企画・作成にあたっては、法律文化社の野田三納子さんから、たえず有益なご教示やお励ましをいただいた。ここであらためてお礼を申し上げたい。

2018年8月15日

松尾 弘
松井 和彦
古積健三郎
原田 昌和